

復活前主日特祷

人類を深く愛し、救い主、み子イエス・キリストをこの世に遣わされた全能の神よ、み子はわたしたちと同じ肉体を取り、己を低くして死に至るまで、十字架の死に至るまであなたに従われました。どうかわたしたちに恵みを与えて、み子の苦しみの模範に従わせ、またそのよみがえりにあずかせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**

旧約聖書 イザヤ書 52章 13-53:12節

13 見よ、わたしの僕は栄える。はるかに高く上げられ、あがめられる。14 かつて多くの人をおののかせたあなたの姿のように、彼の姿は損なわれ、人とは見えず、もはや人の子の面影はない。15 それほどに、彼は多くの民を驚かせる。彼を見て、王たちも口を閉ざす。だれも物語らなかつたことを見、一度も聞かされなかつたことを悟ったからだ。

1 わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるか。2 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように、この人は主の前に育った。見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し、わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。4 彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに、わたしたちは思っていた、神の手にかかり、打たれたから、彼は苦しんでいるのだ、と。

5 彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。6 わたしたちは羊の群れ、道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて、主は彼に負わせられた。7 苦役を課せられて、かがみ込み、彼は口を開かなかつた。屠り場に引かれる小羊のように、毛を刈る者の前に物を言わない羊のように、彼は口を開かなかつた。8 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか、わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり、命ある者の地から断たれたことを。9 彼は不法を働かず、その口に偽りもなかつたのに、その墓は神に逆らう者と共にされ、富める者と共に葬られた。10 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ、彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは、彼の手によって成し遂げられる。11 彼は自らの苦しみの実りを見、それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために、彼らの罪を自ら負った。12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし、彼は戦利品としておびただしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死ん

で、罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのは、この人であった。

詩 編 第22編 1~22節

- 1 主が捕らわれ人をシオンに戻されたとき わたしたちは夢を見ている思いがした
- 2 わたしたちの口は笑いで、舌は喜びの歌で満たされた // 国々の民も叫んで言った、「主は彼らに偉大なみ業を行われた」
- 3 主はわたしたちに偉大なみ業を行われ // わたしたちは喜びに溢れた
- 4 雨のあとにネゲブの川が流れを取り戻すように // 主よ、わたしたちに繁栄を回復してください
- 5 涙のうちに種まく人は // 喜びのうちに刈り取る
- 6 種を手に涙を流して出て行く人は // 束を抱え、喜びに溢れて帰って来る

使徒書 フィリピの信徒への手紙 2章 5-11節

5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。 6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、 7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、 8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。 9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。 10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、 11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

福音書 ルカによる福音書 《22:39-71》 23:1-49, 《50-56》節

1 そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。 2 そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」 3 そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。 4 ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。 5 しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから

始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

6 これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、 7 ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。 8 彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。 9 それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。 10 祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。 11 ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。 12 この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

13 ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、 14 言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。 15 ヘロデとても同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。 16 だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」 17 † 18 しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。 19 このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。 20 ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。 21 しかし人々は、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けた。 22 ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」 23 ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。 24 そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。 25 そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。

26 人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。 27 民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。 28 イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。 29 人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。

30 そのとき、人々は山に向かっては、
『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、
丘に向かっては、
『我々を覆ってくれ』と言い始める。

31『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」

32ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。

33「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。 34 [そのとき、イエスは言われた。

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」] 人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。 35 民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」 36 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、 37 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」 38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」 40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。 41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」 42 そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。 43 するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。

44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。 45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。 46 イエスは大声で叫ばれた。

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」 こう言って息を引き取られた。 47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。 48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。 49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。